

公益財団法人 アジア保健研修所

2020年度事業報告書

(第8期 2020年4月1日～2021年3月31日)

はじめに	2
A. 研修事業	
1. 国際研修	2
2. 研修生へのフォローアップ事業	2
1) 英文ニュースレターの発行	
2) リユニオンセミナー（国別の元研修生会合） および国際ワークショップ開催準備	
3) その他のフォローアップ	
3. 地域保健推進のための協働事業	3
1) 研修生によるコミュニティ活動への支援	
2) アジア各国間での学び合いの促進	
B. 国内活動	
1. アジア理解のためのプログラム	4
1) オープンハウス	
2) 初めて始めて講座	
3) AHI 講座	
4) アジアの NGO ワーカーと語る集い	
5) スタディツアー	
2. 情報および体験機会の提供	5
1) 情報誌『アジアの健康』の発行	
2) 情報誌『アジアの子ども』の発行	
3) インターネットを活用した広報活動	
4) ボランティア・インターンの受け入れ	
3. 他団体との協力	5
1) 他団体への講師派遣	
2) 団体・ネットワークへの加盟	
3) 他団体との協力による政策提言活動	
C. 法人運営	
1. 理事会・評議員会	6
2. 賛助会員募集・募金活動	7

はじめに – 2020 年度を振り返って

新型コロナウイルス感染症の拡大により、世界中が大きな影響を受けた一年であった。AHIにおいても、主要事業である国際研修や例年数百名の来場者を得るオープンハウスをはじめ、変更を迫られたり、中止せざるを得ない事業があった。また、創立 40 周年記念事業・募金も、諸状況に鑑み実施に至らなかった。

創立から 40 年を経た AHI の組織を見直すための議論は、前年度に引き続き事務局を中心に続けた。AHI は何をめざし、何をするかをあらためて明確にし、そのもとで様々な業務をどう位置づけるかを検討した。話し合いの結果をまとめたものを会報 2021 年 4 月号に掲載した。これを持って、今後様々な関係者と対話を持ちたいと考えている。

上述の議論であらためて確認したのは、公正な社会を目指して行動する人づくりに寄与するという役割を一層強めていきたいということであった。

2020 年度初頭以降、各国の元研修生から活動地域の人々の窮状が伝えられてきた。コロナ禍において、草の根から国際的なレベルまで格差が浮彫りとなり、社会の公正が問われている。国際的な通商ルールで定められた医薬品の特許も、人びとの健康に関する格差につながっている。同時に、これまで元研修生が進めてきた住民への教育・啓発、また行政を含め多様な関係者と培ってきた協力関係が、力を発揮している。

人びとの健康の問題を構造的にとらえ、かつ地域の住民と共に健康を作りだしている元研修生のコロナ禍での実践が、それぞれの場で健康と公正を作り出す人を育む重要性を示している。制約の中でできることを模索する中で新たな可能性を感じ、また例年通りにできないがゆえにその事業の目的や課題をあらためて考えた一年であった。

A. 研修事業

1. 国際研修

「地域保健と開発のための国際研修・変化をつくり出す次世代の育成」をテーマに、地域活動の担い手である若者（20 歳台～30 歳台前半）及び NGO の若者育成事業の担当者を対象とし、2020 年 8 月 30 日から 6 週間の開催を計画していた。感染拡大により、中止を余儀なくされたが、翌年度に向けて選考を継続し、8ヶ国 13 名（うち 4 名がその後辞退）を決定した。（以下研修生と呼ぶ）

2020 年 7 月末から年度末まで 5 回にわたり、彼らとオンラインで準備会を持ち、また個別に交信を続けた。この期間の目標は学び合う仲間としてのチームづくりで、率直に意見が言い合える信頼関係をつくり出すことに努めた。

各研修生が自らの活動に関して問題意識を深め、かつ翌年の実施開始までの約一年間、学習意欲を維持させるためにも、所属団体内での支援態勢が重要と考え、随時団体の責任者とも交信を持った。

この間のやりとりにおいて研修生が日常の場にいるからこそ、従来 AHI には見えにくかった面が顕在化した課題もあった。所属団体内の組織運営や、活動地域の住民との関係などである。準備期間において新たに把握したこうした課題を念頭に、次年度の研修内容を検討する必要性を確認した。

2. 研修生へのフォローアップ事業

国際研修を終えて帰国した人たちが学んだことを活かし活動を向上させたり、新たな取り組みを始めることを支援するため、随時交信を行い、関連情報を提供した。

1) 英文ニュースレターの発行

2020 年 6 月および 10 月に作成、約 600 部をオンラインで配信した。従来は印刷物として発行し

てきたが、国際郵便が一時停止されたため、オンライン配信およびホームページ掲載に変更した。

いずれも、各国の元研修生から情報を得て、コロナ禍における各地の現状と取り組みを中心的な内容とした。世界的に共通の問題を抱える中で、自分の地域の状況や取り組みを発信し、同時に他国の状況・事例を知りたいというニーズの高まりを感じた。

2) リユニオンセミナー（国・地域別の研修生会合）及び国際ワークショップ開催準備

これらの事業は、元研修生有志の発案を基に企画し、継続的に学習機会の提供、およびネットワーク形成をねらいとして実施するものである。アジア諸国においても感染拡大による影響が大きく、企画を具体化することはできなかった。SNS等によって情報収集に努めた。

オンラインでの交信がどの国の研修生にとって身近なものとなり、国を超えた情報交換が格段に容易になった。それを念頭に今後のこれらの事業の目的や性格を検討する必要があると考える。

3) その他のフォローアップ

世界的な感染拡大のため、元研修生を訪問することはできなかったが、インターネットによる各地の研修生との交信は増加した。

誕生日カードもデータ化して送付したが、それがきっかけで近況報告、さらに英文ニュースレターの記事につながったものもあった。

3. 地域保健推進のための協働事業

1) 研修生によるコミュニティ活動への支援

① ヘルシーライフスタイル推進

元研修生有志 ANAK-NC との協働
(フィリピン)

ミンダナオ島北ダバオ州ニューコレリア町で、

元研修生グループ ANAK-NC による、地域住民の健康増進とそのため環境整備の活動を支援してきた。2020年度は、感染拡大により現地で移動が制限されたこと、ANAK-NC の中核メンバーが保健行政の責任者として多忙なことなどから、結果、ANAK-NC としての活動が行われず、また交信も途絶えがちとなった。できるだけ早期に協働関係を見直しをはかるものとする。

② 小規模 NGO の若手スタッフ育成

元研修生所属団体 エイズ啓発協会 AIDS Awareness Society (AAS) との協働 (パキスタン)

元研修生が立案した NGO 若手スタッフ育成事業を 2014 年より支援している。2020 年度研修会の開催が危ぶまれたが、下記のように実施できた。

期間：2020 年 11 月 11 日～29 日

場所：パキスタン東部ラホール市

参加者：20 名

最終日に各参加者の活動計画発表が行われ、AHI の職員がオンラインで参加した。当該団体との協力関係の終了予定である 2021 年度末を控え現地での自立的な運営に向けて協議を行った。

2) アジア各国での学び合いの促進

① 次世代育成事業の企画立案

当事業は創立 35 周年記念「アジアの次世代育成募金」を原資に、2025 年までに行うものである。

NGO の若手スタッフおよび地域の若者リーダーを主対象にしているパキスタンでの研修に他国から参加を呼びかけること、および当該テーマで国際研修を開催することを計画していたが、いずれも感染拡大のため実現できなかった。

② アジア各国間の共通課題での学び合い促進

従来から、AHI の元研修生や関係団体間での学び合いのためのネットワーク形成を目指してきた

が、コロナ禍においてその素地が大きくなった。

2021年2月以降混乱が伝えられるミャンマーの状況を、同じく軍部が大きな政治的存在であるタイの元研修生が憂慮し、情報共有の会を発案し実施した。また後述(p.6)のように、ワクチンの公正な分配という喫緊の世界的な課題に関するAHIの動きに元研修生と関連団体から多くの応答があった。このような事例を重ねることを通して有効なネットワークが作られていくと考える。

B. 国内活動

1. アジア理解のためのプログラム

1) オープンハウス

従来体育の日に行ってきたイベントであるが、準備を本格化する頃に感染第二波が生じたため、対面で行うイベントとしての開催を断念した。

オンラインを活用して次の二本立てで取り組んだ。一つは、実行委員が企画を立て、動画を製作し、ホームページに掲載した。元研修生による伝統療法の紹介や帰国を待つ技能実習生へのインタビューなど内容は多岐にわたったが、多くの視聴者を獲得することは難しかった。

もうひとつは9月21日(月・祝)に行った二つのオンラインプログラムであった。一つは、持続可能な開発目標(SDGs)の背後にある課題意識をわかりやすく伝えるための「SDGs オンラインすごろくゲーム」、もう一つは、ネパールとパキスタンの元研修生によるコロナ禍での活動報告である。前者は親子を含む8組の参加、後者は70名の参加があった。後者については、むしろ各国の元研修生からの関心が高く、AHIのネットワークを通じた情報共有への期待をあらためて感じた。

大学生を中心として実行委員間の話し合いをオ

ンラインで行い、企画を検討した。コミュニケーションの難しさの中、従来のイベントに代わり、AHIとそれに関わる人たちを伝えるために方策を模索し、動画製作とオンラインプログラムという初めての試みを行った。

2) 初めて始めて講座

国際協力、あるいはボランティアなどに関心のある新規の人を対象に、当団体の理念や活動を紹介するための講座を対面とオンラインで、毎月第4土曜日に開催した。参加者計46名。

この講座は、AHI活動に関わってもらうための入り口という位置づけを持っているが、2020年度活動が制約されたため、その後の活動への参加につなげることは難しかった。

3) AHI 講座

感染拡大に伴う諸状況のため実施できなかった。

4) アジアの地域づくりワーカーと語る集い

2021年3月13日に「2021年国際研修をめざして 若者リーダーたちのジャーニー」と題したオンライントークイベントを実施した。参加者26名。国際研修参加予定者4名それぞれが、6~7人の小グループで自分のNGOや地域での活動について発表し、また彼らからも日本の参加者にボランティアの動機やきっかけを尋ねるなど対話を持ち、相互理解の機会となった。

特に研修予定者にとって背景の異なる他者に対して発表する体験であり、またAHIに様々な人たちが関わり、自分が参加する研修が支えられていることを知る機会となり、研修への意欲を高めることにつながった。

5) スタディツアー

コロナ感染拡大のため、2019年度に引き続き、

2020年度も中止した。

既述のオープンハウスでは、過去のスタディツアー参加者と受入れ側の元研修生とをつなぎツアーの体験を振り返る対話を動画企画の一つとした。

2. 情報および体験機会の提供

1) 情報誌『アジアの健康』の発行

支援者への活動報告およびアジア各国の人びとの暮らしや開発活動などについて情報提供をねらいとして、計5回、各回約3,000部を発行した。うち1回は簡便な形(A4サイズ1枚両面)とした。

特に世界規模で感染が広がり、それに伴う生活困窮も伝えられる中、日本の読者にも関心が高いと考え、アジア各地の研修生の状況を毎号掲載した。また会員・ボランティア紹介などを通じて読者がAHIを身近に、また帰国後の研修生の活動の様子を伝えることを通して、支援の手ごたえを感じられるような誌面づくりに努めた。

会員・ボランティアによる編集委員会が担当職員とともに、企画立案および編集を担った。

2) 情報誌『アジアの子ども』の発行

日本の子ども(主対象:小学校高学年以上)向けに、同時代を生きるアジア各地の子どもたちの日常をわかりやすく伝えることをねらいとしてきた。しかし2020年度は各地で外出制限が敷かれ、元研修生による情報の提供が困難となった。

このような中、異文化理解をテーマとして、ホームステイの経験を研修生と受入れ家族双方からとらえた内容の号を作成。2020年8月に4,000部発行した。会員による編集委員会が担当職員とともに、企画立案および編集を担った。

年に2回の発行を計画していたが、2020年度は事務局の人員態勢が整わず1回の発行となった。

3) ホームページ運営

ホームページやブログを活用し、活動内容をわかりやすく、タイムリーに更新することに努め、同時にSNSなど他の媒体との連携に努めた。

年度初めに非営利団体向けのオンライン決済サービスを導入。単発の寄付にも対応できるようし、支援のための利便性を高めた。

4) ボランティア/インターン受入れ

コロナ感染状況を考慮に入れつつ、年間を通じてボランティアやインターンを受け入れた。AHI活動に関わることによる社会参加あるいは新たな社会経験の機会を提供した。

インターンは、損保ジャパン環境財団によるインターンシップ制度を通し大学院生1名を受け入れた。またキャリア教育を推進するNPOのプログラムを通じて高校生3名を3日間受け入れた。

3. 他団体との協力

1) 他団体への講師派遣

オンラインでの実施をふくめ、下記のように職員や関係者を講師として派遣し、国際理解推進に協力した。

・学校関係(中学～大学)	11件
・キリスト教会・諸団体	5件
・グループでの来館受け入れ	3件

上記以外に、下記も行った。

*「小学校で行う国際理解講座」

日進市内においては市との協働事業として日進市立の小学校計7校で実施した。また要請に応じて、近隣市においても計2校で実施した。

2) ネットワークへの加盟・外部団体への協力

下記の諸団体に加わり、関連分野の活動を進めている。< >内は当該団体における役職。

- ・名古屋 NGO センター<理事>
- ・名古屋キリスト教協議会<書記>
- ・障害分野 NGO 連絡会<幹事>
- ・日比 NGO ネットワーク【2020年12月に退会】
- ・日本キリスト教協議会<常議員>
- ・カンボジア市民フォーラム<世話人>
- ・(特活) 開発教育協会
- ・社会福祉法人さふらん会<評議員>
- ・名古屋 YWCA<評議員>

この他、日進市において、職員1名が日進市自治推進委員会の委員を務めており、また市民グループ「にしん平和を考える会」及び「次世代の子どもたちの“いのち・くらし・エネルギー”を考える会」の活動に加わっている。

3) ネットワーク団体を通じた政策提言活動

加盟団体の一員として、関連分野において市民向けの啓発活動や、関係機関等への政策提言活動を行う。

a) 名古屋 NGO センター

東海地域の NGO ネットワークである同センターの加盟団体として、国際協力機構 (JICA) や外務省などへの政策提言活動や市民向けの啓発活動に関わった。2020年10月には、オンライン学習会「コロナ禍に脅かされるアジアの市民社会と私たち」がスリランカの元研修生がスピーカーの一人となり実施され、コロナ禍で政府が強権性を強め、NGOの自由な発言が押さえられる状況が報告された。

また同センターが企画・運営を行った国際協力カレッジ (主催: JICA 中部) に参加。国際協力に関心を持つ大学生などに活動紹介を行い、センターが推進する地域の人材育成にも協力した。

b) カンボジア市民フォーラム

同フォーラムの加盟団体として、カンボジアの社会状況や課題に関して広く伝え、また開発協力

を行う日本政府への提言活動に関わった。近年加速するカンボジア政府による NGO 活動への抑圧や言論統制に関して、日本の NGO としての役割を協議した。

c) 「新型コロナに対する公正な医療アクセスをすべての人に！」連絡会

ワクチンが開発されて以降、新型コロナウイルスに関するワクチンをはじめとする医薬品の公正な分配が世界的に重要な課題となった。障壁のひとつである知的財産権保護に関して一時的な停止を求める動きが国際的に広がり、AHI は日本の他の団体とともに連絡会を作り、市民への啓発および日本政府への申し入れを行った。

またそれにあたり元研修生や海外の関係団体へも賛同を求め、約 50 団体がこの呼びかけに応じた。

C. 法人運営

1. 理事会・評議員会

理事会を4回、評議員会を2回開催した。2019年度末現在、理事10名、監事3名、評議員10名である。開催日と主な議題は下記の通り。

* 理事会

2020年6月10日

ー2019年度事業報告案・決算案の件

2020年8月26日

ー代表理事および業務執行理事選出の件

2021年1月27日

ー組織強化に関する自由協議

2021年3月10日

ー2021年度事業計画案および予算案の件

■市道南山・黒笹線の拡幅計画について

2019年度に国からの許可が下りた「東郷スマー

トインターチェンジ(仮称)設置計画に伴い、AHI前の市道の拡幅計画が市から出された。拡幅される場合、AHIが所有する敷地(基本財産)にかかるため、近隣の事業所と協力しつつ、随時、市と協議を持った。

* 評議員会

2020年6月30日

ー2019年度事業報告案、決算案の件
なお、当評議員会は感染防止のため、書面評決にて行った。

2021年3月29日

ー2021年度事業計画案、予算案の件

2. 賛助会員募集・募金活動

賛助会員現勢(2021年3月31日現在)

●賛助会員総数 2,376名

前年度比 131名減

内、ひとつかみサポーター197名

前年度比 12名減

●寄付者総数 586名

前年度比 9名増

●支援者・資金獲得のための働きかけ

1) 支援のよびかけ

オープンハウス開催にあわせ、長年支援を続けている会員を対象に、感謝を表し、若い世代への継承を含めさらなる関与をお願いする場として2018年に開始した。しかし今年度は、感染拡大のため実施できなかった。

また、例年プログラム参加者やボランティアを対象に「ひとつかみサポーター」の協力依頼を出しているが、2020年度は活動が縮小し、該当する人が限られたため、送付を行わなかった。

2) 古本・切手・ハガキでの寄付「ギフトリレー」

古本買取・販売の会社の社会貢献制度を利用した寄付を随時受け付けた。また切手やはがきでの寄付も呼び掛けた。

古本による寄付は、計 29件 55,396円、未使用・書き損じはがきおよび切手による寄付は、計 169件 522,978円であった。

3) 「想いを伝える遺言書講座」開催

遺贈への関心の高まり、一定の社会的認知も生まれていることを受け、元職員である司法書士の協力を得て実施した。2020年度の開催は、2020年11月に講座と翌週に個別相談会を行い、のべ9組の参加があった。なお、5月にも開催を計画していたが、申込がなく実施に至らなかった。

●会費・寄付金実績

■会費収入実績 計 13,048,403円

前年度比 536,584円増

a) 新規会費 計 138,116円

内訳： 終身会費 1件 100,000円

年会費 7件 17,116円

「ひとつかみ」(月額引落) 3件 21,000円

b) 継続会費 計 12,910,287円

年会費による 9,868,287円

「ひとつかみ」(月額引落) 3,042,000円

■寄付金収入実績 計 31,552,089円

前年度比 1,446,343円増

1. クリスマス・お正月募金 14,428,356円

期間 2020年12月1日～2021年2月28日

協力件数 1,376件

(目標 15,000,000円 達成率 96%)

2. 一般寄付 17,123,733円